

コロナ禍における 在宅医療・介護連携の課題と対応

趣旨

- ①目的
- ・新型コロナウイルス感染症拡大という非常事態において、在宅医療・介護連携の場面での困りごとや課題を把握し、今後の感染症拡大時対応だけでなく、平常時での連携推進につなげる。
 - ・各職能団体の状況を共有することにより、柏市全体の状況をとらえる。その上で、必要なことや求められていることを把握し、今後の具体的な医療・介護連携の取組みにつなげる。

- ②方法
- ・各職能団体にアンケート・ヒアリングを実施（8～10月初旬）

- ③資料
- ・【スライド3～12】
各職能団体へのアンケート結果
 - ・【スライド13～14】
市民や地域の状況についてのヒアリング結果
（柏市社会福祉協議会，柏市ふるさと協議会連合会）
 - ・【スライド15～16】
まとめと総括

○資料をご確認いただき、

- ・ 各団体の回答から参考にしたいこと
- ・ 在宅医療・介護連携の取組みについての提案

以上について、別添の意見等回答書にて、ご回答をお願いします。

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：柏市医師会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・感染拡大時当初に衛生管理用品（マスク、消毒薬、ガウン等）の供給が困難であった
- ・感染が疑われる患者がいても、保健所の判断で検査が実施できずに対応に苦慮することがあった

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・入所施設で訪問診療を断られたり、病院受診ができなくなり短期間の訪問診療を依頼されるケースがあった。

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・会員に対して、マスク、アルコール、フェイスガード、ガウン等、PPEの配布を実施した。
- ・在宅プライマリケア委員会で感染防止対策の情報共有を実施した
- ・在宅療養支援診療所で感染者・濃厚接触者が発生した場合のサポート体制を確立
- ・PCR検査センターの設置等、検査体制の強化に取り組んだ。
- ・理事会や各委員会等、会員集会にweb会議を活用中

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：柏歯科医師会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・ サービス対象が有病・高齢者がほとんどであり、感染した場合に重症化するリスクが高い
- ・ 患者に発熱症状が出た場合、誤嚥性肺炎なのかコロナウイルスに罹患しているのか判別できない
- ・ 感染リスクを低減するためには長時間の接触を避けなければならないが、質を落とすわけにはいかない状況がある。
- ・ 一部で出入りを断られた施設等があり、口腔衛生状態の悪化が懸念される
- ・ 感染拡大時当初に衛生管理用品（消毒剤、PPE）の供給が途絶えていた

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・ カシワニネットにお部屋がある方は日々の状態の変化が把握しやすいが、そうでない方は難しい。

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・ 会員に対して、フェイスガード等、PPEの配布を実施した
- ・ 関連機関からの指針等について会員に周知を行った
- ・ 会員の協力を得て、N95マスクを医師会に寄贈した
- ・ web会議を活用している

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：柏市薬剤師会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・防護服等の衛生資材の手配が困難であり、患家では着脱についても困難であった

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・医療・介護関係者が感染者になった場合は、ひとりの在宅患者に係る医療・介護従事者全てが働くことができなくなり、これまでどおりのサービス提供ができなくなる可能性がある
- ・患家に訪問するタイミングを他職種とはずらす必要性が出てくる
- ・担当者会議は今までと同じやり方ではできない

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・マスク、高濃度エタノール、フェイスシールド、アイソレーションガウン等を会員に配付・斡旋

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：柏市訪問看護ステーション連絡会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・各事業所に有熱者の連絡依頼をしていたが、訪問してから急に感染対策が必要になるケースが多かった。
- ・ご家族や利用者のマスク着用が徹底されていないことが多い
- ・対応相談等、保健所が窓口だとわかっているが、忙しいと思いき躊躇してしまうことが多かった
- ・発熱等の体調不良時に、ケアマネやヘルパーからの訪問依頼があるが、不安な中での対応となる
- ・入浴介助対応時の感染対策（マスク・フェイスガード等の着用）が負担に感じる
- ・事業者専用の相談窓口を設置してほしい

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・介護職員のマスクやエプロン（予防着）着用などの対応に違いがある
- ・ヘルパー事業所の対応（発熱時に訪問中止とする期間）がそれぞれ違うため、苦慮する
- ・退院時カンファレンスの開催ができないため、情報共有に時間がかかり、指導内容等のやり取りにタイムラグが生じる
- ・病院主治医の不在ですぐに対応してもらえないケースが多々あり、連携に苦慮する場面がある

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・ステーションごとの衛生材料保有状況の把握と会員へのマスクの配布の実施
- ・感染者発生時の事業所閉鎖時の協力体制づくりの確立（協力事業所グループの作成）
- ・発熱者や疑い例への対応方法をカシワニネットにて情報共有し、過度にならない範囲で統一化

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：柏市介護支援専門員協議会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・発熱者がいる時や家族が濃厚接触者となった場合の問い合わせ先がわからずに苦慮した
- ・厚労省から発信される「臨時的な取り扱いについて」へのその都度の対応に時間が取られた
- ・同居する介護者が感染した場合に、介護が必要な高齢者への対応方法が明確でなかった
- ・事業所のサービス利用停止・廃止情報のタイムリーな情報がほしい
- ・感染によりケアマネ事業所が閉鎖となった場合のサポート体制が明確になっていない

2. コロナ禍における医療・介護連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・病院の面会制限により、入院中の本人の情報収集、退院時連携が困難であった
- ・入院中に在宅療養に向けた退院前指導等が十分に受けられず、退院後に本人やご家族、在宅支援者が混乱することがあった
- ・入院していたことを理由に、在宅サービス側の自粛により、退院後一定期間サービスが利用できない状況が発生した
- ・退院時連携の効果的な方法の検討

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・今年度の研修計画の中止等、活動を縮小せざるを得ない状況だが、カシワニネットを活用した情報発信と情報共有を主に展開する方向性を決定
- ・総務会のあり方の検討：オンライン会議開催の検討

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：柏市在宅リハビリテーション連絡会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・感染予防資材が不足している。スタッフへの感染予防対策の周知徹底不足があった
- ・感染リスクによりリハビリは休みとなるケースがあったが、生活不活発病のリスクもあり、十分な対応ができなかった。
- ・体調不良の本人または家族の連絡が確実になされない。利用者本人だけでなく、家族など同居者に感染者がいる可能性があり、その把握や対応が難しい。

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・担当者会議など直接会って話し合うことができなかつたので、複数人で同時に情報共有することができなかつた。ケアマネとは個別に電話にて情報共有しているが、担当者間で話し合う機会は減ったカシワニネット等の活用もしているが、直接話し合えないため、細かな情報共有はしにくい
- ・有益な情報交換や共通の課題認識ができるWebを利用した連携方法がもっと必要になるが、端末等の環境整備の状況にばらつきがあるため配慮は必要である

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・WEB勉強会、オンライン配信の実施
- ・地域活動（サロンやサークル活動等）が自粛されていることにより、活動量が低下している高齢者に対するアプローチ方法を検討
- ・万が一、事業所が閉鎖になった際に他事業所で利用者をカバーできる協力体制を検討

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：認定栄養ケア・ステーション柏市連絡協議会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・ 公共施設が閉鎖になったことで、市民啓発事業等の活動ができなくなった
- ・ 訪問時に患者へ感染させてしまうリスクへの不安が大きかった

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・ 集合して顔を合わせての会議が難しくなった
- ・ 電話やメールで微妙なニュアンスの違いを伝えることに苦労した
- ・ 感染拡大防止のため直接顔を合わせて連携することが難しいため、新たな連携方法の工夫

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・ オンラインを活用した会議の開催
- ・ 対面での対応時は標準予防策の徹底
- ・ 介護予防教室や食事療法教室のネット配信を検討中

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：柏市介護サービス事業者協議会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・衛生物品入手困難な状況があった。スタッフの確保にも苦慮し、職員の接触に対する不安や健康管理の不安が大きかった
- ・事業所内で3密を防ぐためのスペースの確保が難しかったり、距離感がつかめない状況があった
- ・感染疑いや感染者発生時の補償・保障や人員確保・応援体制等への不安があった
- ・国の指針等の情報提供が遅く、各サービス事業所や利用者への説明に影響した。通達も曖昧であり個人や事業所の判断で動かざるを得ない状況があった
- ・市からの速やかな情報提供や利用者（市民）への周知，衛生物品の提供
- ・感染疑いの職員が出た場合の補償と応援体制の確立

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・感染疑いがあった場合に主治医に診断を依頼したが、断られた
- ・主治医がPCR検査を実施するのではなく、他の病院への再受診を勧められた
- ・施設として協力医療機関を設けているが、医療機関としての指導や助言を求めることができない
- ・感染疑いがあった際の相談・受診方法の明確化
- ・協力医療機関の相談体制の強化

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・会員へアンケートを実施した上で、柏市に要望書提出（7月21日）、会員へマスク配布の実施
- ・感染者発生時の職員応援体制の確立に向けた検討
- ・訪問系事業所，入所系事業所で感染者・濃厚接触者が発生した場合の対応スキームの検討

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：地域包括支援センター】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・ひとり暮らしの方の受診支援の依頼が多くなった
- ・ひとり暮らしの高齢者の安否確認の依頼の際、「調子が悪い」「動けない」という体調不良者の場合にどこまでの感染対策をして対応すべきか悩むことがあった
- ・有償サービスが利用中止となり、代替方法が見つからず、包括に支援の依頼が入ることがあった
- ・臨時的取り扱いの算定の判断を求められることがあり、問い合わせ窓口の周知不足があった
- ・同居家族が濃厚接触者となり、高齢者本人の受け入れ先の調整に苦慮した
- ・原因不明の発熱の相談を受け、保健所の相談センターにつないだが、検査実施に至らずに見守り継続となったり、PCR検査結果が出るまでの間の対応相談もあり、対応に苦慮した
- ・新規認定者について、デイサービスの見学ができないためサービス利用に時間がかかる、ショートステイの利用につなげにくい現状があった

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・病院の面会制限があり、入院中に意向確認ができなかったり、本人の状態がわからないまま退院後に関わることになることが増えた。
- ・病院のMSWとの調整がうまくいかず、調整に時間がかかることがあった
- ・入院中に家屋調査の依頼を受けるが、本人の状態がわからないまま環境状況のみの確認になった
- ・退院後に介護保険サービスの利用意向があるが、受け入れ先が見つからず苦労した

在宅医療・介護連携における 新型コロナウイルス感染症拡大時の課題・困り事

【団体名：千葉県医療ソーシャルワーカー協会】

1. コロナ禍における在宅医療・介護サービス提供時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・面会制限がある中で、患者の状態をご家族とも十分に共有できない
- ・感染を恐れて外来通院を差し控える傾向があり、患者の状況を把握しづらい

2. コロナ禍における医療・介護職との連携時に困ったこと、課題に感じたこと

- ・退院前の在宅支援者の方々との対面カンファレンスの頻度を減らす必要があった
- ・退院直後、感染有無（発熱有無）を1週間程度確認してからでないと、サービスを利用できない事業所があった
- ・対面機会（カンファレンス実施等）の制限があり、密な連携が平常時より難しかった

3. 団体に既に実施した対策や今後実施予定の取り組み

- ・会員へのコロナ禍における業務への影響について調査を実施。調査結果の公表と千葉県への報告を検討中
- ・理事会をオンライン会議にて実施
- ・研修のオンライン開催を計画中

【団体名：柏市社会福祉協議会】

- ・ゴミ出しサービスや、民生委員の面談等、必要性の高い活動でもコロナの影響で控える状況だった。活動する際も、認知症の方にマスクをどうつけてもらうかなど対応が難しい部分があった。社協の活動はボランティア等の協力で成り立つ部分が多いため、万が一感染を広げてしまう場合を考えてしまうと、自粛せざるを得ない活動が多かった。
- ・人と接する機会が少ないと、体力低下やうつ傾向など個人によっては深刻な状況に変化してしまう可能性があるため、ある程度つながりは必要である。感染対策をした上で活動再開の周知をしたが、初めは見送る団体が多かった。ようやくこの秋頃にスタートするところまでできた。
- ・コロナ禍で活動するための工夫としてオンラインの活用を検討している。例えば通いの場へのポケットwi-fiの貸し出しや、施設慰問をオンラインで実施することなどを考えている。また、実際に集まる場合でも、場所を室内ではなく屋外にしたり、集める人数を少なくする等、工夫して実施している。在宅医療推進の取り組みである顔会議等も地域単位で分散し、人数を少なくして実施すると良いのではないか。

【団体名：柏市ふるさと協議会連合会】

- ・自らデイサービスへの通いをやめるなど、自粛の影響を聞いていたが、最近では感染の落ち着きや状況への慣れから、少しずつイベント等が再開しており、参加者も増えてきたと感じる。久しぶりに会議で集まると、いつもの会議でも、参加者が嬉しそうに話していると感じる。
- ・新型コロナについては、一人ひとり意識の違いがあり、千差万別と感じる。集まる機会をすべて否定されては、これまで作り上げた地域のつながりを否定することにもなってしまう。参加するかどうかは個人の判断によるが、規模を小さくしても、少しずつ再開することも良いと思う。
- ・ふるさと協議会でもオンラインの導入を検討している。使えない者がいる等の意見もあるが、理解のある人だけでも参加してもらいたいと考えている。
- ・病院に行くことに抵抗を感じ、在宅医療に移行できないか相談を受けたことがある。在宅医療を応援している者とすれば、多くの方に利用していただける機会につながると思うが、医療・介護従事者の方は感染リスクがある中で大変だと思う。この難局を乗り越えてほしい。

まとめ ①

1. サービス提供時の課題

①医療職	<ul style="list-style-type: none">・衛生管理用品の入手困難な時期があり苦慮した。※1・体調不良者の連絡体制が不十分。・外来通院を差し控える傾向により、患者の状態を把握しづらい。・病院の面会制限により、患者の状態把握や共有が困難。※2・支援者から感染させてしまうのではないかと不安。
②介護職	<ul style="list-style-type: none">・衛生管理用品が入手困難。※1・多量の情報処理に時間がかかった。・職員への感染予防対策の周知徹底が不十分。・職員の接触に対する不安や健康管理の不安が大きい。・事業所内で3密を防ぐスペースの確保が難しい。・感染者発生時の補償・保障，人員確保に不安が大きい。
③その他	<p>(包括) 有償サービスが中止となり代替方法がない。 感染疑いで結果が出るまでの間の対応が難しい。</p> <p>(市民) サービス利用や地域活動の自粛で交流の機会が減少した。 感染を恐れて病院受診に不安を抱えている市民も多かった。</p>

補足:近い内容のものに「※」をつけています。(次スライドも同様です。)

2. 医療・介護連携時に困ったこと・課題に感じたこと

①医療職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入所施設等でサービス提供を断られ、患者の状態確認ができない ・ 退院直後は本人がサービス利用を希望しても、感染確認のため、一定期間介護サービスが停止する状況があった。※3 ・ 対面での情報共有が難しく、直接話せないことでニュアンスが伝わりづらく密な連携が困難だった。※4
②介護職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院中の本人の情報収集ができず、退院時連携も情報共有が困難だった。※4 ・ 発熱時の相談や受診がスムーズにできなかった ・ 担当者会議やカンファレンスが行えず、連携の機会が減少した。
③その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ (包括) 病院の面会制限があり、状態や意向が確認できない。退院後のサービス調整が受け入れ先がなく困難だった。※2※3

総括

- ・ 万が一の場合に備えた協力体制の構築等、連携が強化されている。
- ・ 情報共有の重要性が再認識され、オンラインの活用が推進されている。カシワニネットの有効活用についての意識の高まりも見られている。
- ・ 地域での「つながり」の必要性が再認識され、各地域の特性に合わせた検討がなされ、少しずつ地域活動も再開されつつある。